

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670400738		
法人名	有限会社 三友医療		
事業所名	さんゆうグループホームふいりあ		
所在地	米沢市万世町桑山4660番地		
自己評価作成日	平成22年9月10日	開設年月日	平成15年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成22年10月5日	評価結果決定日	平成22年11月11日

# さんゆうグループホームふいりあ

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由に動く事が出来ない利用者にとって、気分転換を兼ね雪が降る前の11月位までは月に1度ドライブや外食を楽しんでいただいている。食事が楽しみとなっている利用者にとって、いかにおいしい料理を食べていただくか職員も日々検討している。又歌の好きな利用者が多く毎朝職員と共に唄いゆったりと過ごしていただいている。地域にも積極的に出て交流を深めている所である。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者とスタッフが、わきあいあいと食事や会話を楽しみ、非常に家族的な雰囲気のもとにケアされている。地域からの反応は現在のところ薄いですが、事業所の行事や、防災訓練などに地域に積極的に参加を呼びかけているなど、地域との関係性を強めようと努力がされている。献立は季節の素材を活かしたものとなっており、ベテランの職員と利用者が協力しながら作られている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は食堂、厨房、和室に掲示しており毎朝、朝礼で唱和している。又、ケア会議でもふれ日々反映させている。	毎朝の引継ぎ時に唱和するとともに、月1回(第3木曜日)のケア会議でその月の目標を掲げて理念との関わりを確認し、スタッフに周知するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーを利用し、地域の行事などにも参加させて頂いている。ふいりあの行事などにも案内状を持ちお誘いしている。	町内会に入会しており、市の情報等、地域の情報が回覧等により得られるようにはなっており、又、地域の行事にも参加している。事業所の行事などに関して地域に案内状を出してはいるものの、参加は少ない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常積極的に挨拶をしている。。近所の方から畑で採れた野菜をいただいたり、ふいりあからのおすそ分けをお持ちしたり町内会長や副会長に挨拶をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し提案された項目など話し合い、サービス向上につなげていく姿勢で取り組んでいる。J事業所の状況、評価などについて意見をいただきながらサービスの質の向上に努めている。	町内会副会長、近所の人、社会福祉協議会、高齢福祉課、家族、利用者で概ね3ヶ月に1回で開催している。事業所の状況に関する報告が主となっている。	事前にスケジュール、おおまかな議題を決め、概ね2ヶ月に1度の開催をすることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受入をし、ゆっくりお茶を飲みながら利用者や職員の話しをきいていただいている。運営推進会議にも出席頂き意見をお聞きしている。	推進会議に参加している市の担当者、相談をしている担当者は異なっているが、話は聞いて頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>玄関にはなるべく鍵をかけない様にはしているが帰宅願望が非常に強い利用者が入所され、日曜日と午後4:30ぐらいからは今の所は鍵をかけている状態である。しかし身体拘束や言葉の拘束などケア会議などで折に触れ拘束しない方向で話し合い、浸透させている。</p>	<p>帰宅願望の非常に強い利用者があるため、鍵をかけることを常態化はしていないが、都合により、鍵をかけている場合もある。身体拘束などについてはスタッフ間で話し合いを行い、拘束についての問題を認識している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>社内研修においても虐待防止法に関する学びをしており、話し合いを持ちながら防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度の研修に参加しているが理解が困難であり又それを伝えようとしてもうまく伝えることができない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は契約書、重要事項説明書を読み合わせ説明し、特におこりうるリスクについては詳しく説明の上同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月1回介護相談員を受け入れ、ゆっくりお茶を飲みながら利用者の相談など話を聞いていただけるように、している。</p>	<p>月1回介護相談員が来て利用者の話を聞いて頂いている又家族が面会の時、行事で来た時等話を聞くようにしている。又事業所以外の人に意見、苦情を言える場所がある事を家族に説明している。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から問いかけ聞き出しなどコミュニケーションを図り月1回の会議では全員が意見を出しやすいように位置関係を考慮している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社側と職員一人一人の面談が定期的に行われており、希望、要望など話合っている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体の研修を月2回開催しており全職員が参加できるよう配慮されている。事業所外での参加では、事業所内での発表の場が有り、全員で共有するようにしている。	法人内で身体拘束、接遇等の研修を行っている。外部研修に関しても事業所からの推薦で参加し、研修後は伝達研修で報告している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県G・H協に参加しており交換実習や置賜ブロック会などを通じ情報交換や知識を広めサービスの質の向上につなげている。	県GH置賜ブロックに参加、交換実習に参加して情報交換しサービスの質の向上につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用をする前に本人と面談し、要望、生活状態など把握し不安などに対し十分話し合い、受け入れてもらえるよう心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に本人と面談後ご家族の不安や要望など聴き、それに対しどんな対応ができるか事前に話し合いを持っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、実情など、今何が必要かを見極めサービスにつなげている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、先輩から学ぶという姿勢で全員で共有しており穏やかに自由に生活できるような環境作りや声掛けをして寄り添っている。又、会社でありがとう経営を推進しており、お互いに感謝の言葉がでてくるような環境作りをしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは一緒にお茶を飲みながら他利用者様の話し相手になって頂いたり、行事に参加して頂き、お手伝いなどお願いし職員も支えて頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	軽度の方にはご本人の行きたい所、思い出の場所をお聞きしながら出掛けられるよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆んなで楽しく過ごす時間や気の合った人同士で過ごせる場面作りを心掛けている。すべての職員が関係性について情報を共有しており、それぞれの場面を見守っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方やご家族にもいつでも立ち寄っていただけるような声掛けをしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添う時間を大切にしており、日々の関わりの中で表情、言葉のなかから思いを把握するよう努めている。意思疎通困難な方は家族から情報を得ている。	アセスメントはADL中心となっており、思いや希望に関しては、日々の生活の中で聞いているが職員の共通の情報として周知されていない。	職員の共通の情報として認識する為にも、アセスメントツールの利用が望まれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の際プライバシーに配慮した生活歴などお聞きしている。入居されてからも関わりの中で聞き、面会時家族からもお聞きしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人の1日の生活で全体像を把握するようにしている。その中から本人の出来る力を引き出せるように、見落とさないよう心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活機能、健康状態、精神面での状態等全職員で話し合い、ご家族や本人の希望を聞きながら、必要時は主治医の意見を取り入れて作成している。	ADLのアセスメントはされているが、利用者の思いや意向、家族の希望、等の、介護計画書が作られていない	利用者、家族の思い、希望を入れた介護計画書を作成、同意、交付が必要である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員と常時話し合いながらケア会議にて気づき、工夫など情報を共有しながら実践や介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元で開催される行事などに参加させていただきながら避難訓練などの防災についてもお話を頂いたり安心して生活ができるように支援している。又町内会長と話し合い、名簿を作る計画もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、本人や家族が希望する馴染みのかかりつけ医になっている入居時、説明を行い家族の協力で、付き添い受診をしている。協力医の往診も月2、3回行っている。	協力医への通院は事業所のスタッフが同行している。家族が希望する馴染みのかかりつけ医の時は家族が対応している。協力医も月2回は往診して頂いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいないので往診時、いつも来ていただいている看護師に日常の健康管理のアドバイスなどいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は交代でお見舞いに行くようにしており、退院に向けての面談、退院後の留意点など詳しく説明を受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が上がった場合は職員、家族、医師を含めて話し合いを持つようにしており、指示をいただいている。事業所が対応しえるケアについて入所時、家族に説明している。	重度化した時の説明はしているが、はっきりした文書を作成して同意を得るように、文書を作成している所である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けており、急変時対応マニュアルなど活用し各自勉強し会議など折に触れ復習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、利用者にも参加して頂いている。誘導消火器の使用法避難経路の確認など全員で確認している。近所にも参加の呼びかけや協力の依頼を書面にて配布している。災害時の対応についても、日頃から関心を持つように心がけている。	スプリンクラー、自動火災報知器は設置されており、業者が来て消火器の実地訓練を含む防火訓練を行っている。年2回の避難訓練も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報の保護に努めている。日々の関わりの中での利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉づかいに気をつけており、会議などでも話し合い職員の意識向上につとめている。	個人情報、プライバシーに関する研修を行っている。又日常生活の中でも言葉掛けの対応に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提案し自己決定ができるよう心がけている。意思表示ができない利用者であっても表情、全身の反応を見落とさないように注意を払い本人を把握する努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安としている流れはあるが時間の区切りはなく、その方のペースにあわせて柔軟に対応している。レクリエーションなどにおいても強要せずにそれぞれのペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人に決めていただき、意思疎通困難な方には職員がきめらせていただいている。外出などには本人の希望をお聞きし、化粧やおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか利用者聞きながら献立を決めている。盛り付け、食器を洗う人、拭く人など職員と共に行い、食事も職員と共に同じテーブルを囲み楽しむようにしている。	献立はその日に担当者が決めている。旬の食材を取り入れた献立になっており、和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が分かるように食事、水分補給のチェック表を付けて、職員全員で取り組んでいる。飲みたがらない方に対し飲みやすいものを考えながら声掛け、摂っていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを職員が認識しており、一人一人の状態に合わせて口腔洗浄剤や義歯洗浄など行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握しており尿意の無い方にも時間を見計らい耳元で声掛け誘導している。その人のサインを見逃さずさりげなく誘導している。	排泄チェック表を利用してトイレへの誘導を行い、日中はリハビリパンツを使用している。夜間はI人だけオムツを使用している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介助が必要な方の把握はできるが自立している方の把握は難しい所がある。しかし本人の訴えやこちらからの問いかけを行い水分を摂っていただく又主治医に相談するなどの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	目安としての時間はあるが本人の希望に合わせて、ゆっくり入浴を楽しんでいただけるよう配慮している。順番なども工夫している。	週2回を基本としてしている。毎日入浴したいと希望する利用者はいなく体調に合わせて、順番等には工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の表情や体調を考慮しながら日中活動する場面を増やす工夫をし生活リズムを整える様心がけている。ソファを設置し休息できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明書を活用し確認、理解している。服薬時療法を守り症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野、好きな事を尊重し、役割を見つけ力を発揮して頂けるような支援をし常に感謝の意を伝える様にしている。気晴らしに外食などもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人に合わせ自由に散歩していただいている。月1回のペースでレストランで食事をしたりドライブに行き季節感を味わっていただいている。	1日に3回も散歩する人もいる、外出を希望しない人もいる、それぞれの希望に合わせて対応をしている。月1回はドライブの計画があり、季節の花を見に行くなど外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の支払の際は預かり金を手渡し出来るだけ本人に支払っていただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話が使えるようにしており、希望があればいつでも対応できる状態にある。手紙が届いたときは返事を書くように促し書かれたときは職員と一緒に出かけ投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには皆で楽しんだ思い出の写真を飾ったり使用者が屋外から摘んできた花などを飾り又食事作りの音、香りが立ち込めたりと五感や季節感を感じとれるような工夫をしている。共有スペースに季節季節のものを飾りつける。	台所、食堂、ホールと続いていて調理をしながら、スタッフと利用者が会話を楽しんでいる。玄関の所にあるソファがお気に入りのようで2、3人でくつろいで話している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを設置しその場で過ごしていただいたり気の合う仲間と話などをし広げるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用しているタンスや使い慣れた椅子、写真や日用品などを持ってきていただき生活スタイルもご本人に合わせ居心地の良さに配慮している。	家族の協力もあり、個々人の生活が見え、安心して過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、トイレ、廊下、浴室に手すりを設置し安全確保と自立に配慮をしている。又利用者にはゆっくり分るように関わり、本人の不安、混乱を取り除き、状況に合わせた対応を心掛けている。		